

相国寺御用達

京名菓 雲龍

雲龍は、俵屋吉富の七代目店主が相国寺所蔵の「雲龍図」(狩野洞春筆)に感銘を受け、うねる雲間を飛翔する力強い龍の姿を表現し創作した一世の名菓です。

大粒の丹波大納言小豆をはじめ、吟味を重ねた最高級の素材を用い、現在も変わらず、熟練された職人の手で、一本一本丁寧に作りおりました。

大切な方への心を込めた贈り物に、

京名菓 雲龍をどうぞ...



京菓子司 俵屋吉富

本店

京都市上京区宝町通上立売上ル

電話 ☎ 43212211 ☎

烏丸店

京都市上京区烏丸通上立売上ル

電話 ☎ 43213101 ☎

圓明

平成二十六年 夏号(第一〇二号)

大本山相国寺
相国会本部



修復された方丈で四年ぶりに厳修



懺法の花 立葵

百二十六年ぶりに伊藤若冲筆の『動植綵絵』(複製)を掛けて厳修
平成二十六年六月十七日

相国寺「観音懺法会」

かんのんせんぼうえ



写真撮影◎柴田明蘭氏



暑中お見舞い申し上げます

平成二十六年 盛夏



まるにくん

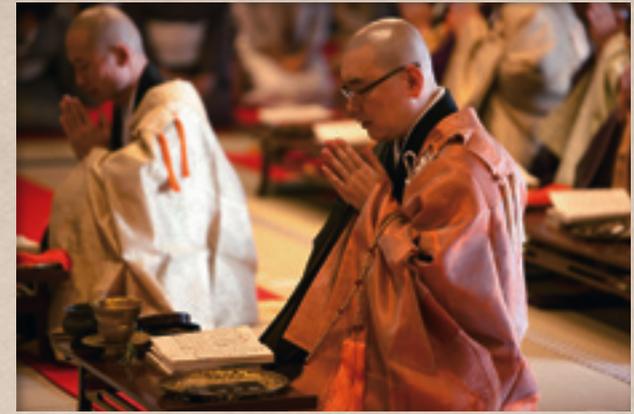
Copyright © 2014 相国寺 All Rights Reserved



大衆立拝



読経される管長



導師



四方念仏：行導



大衆読経風景



雲水による鼓鉦運び



導師焼香(管長)



こうげ
香華独唱



か
磬



寺庭婦人方による抹茶接待



ほうそう
奉送：観音菩薩をお送りする鳴らし物



じぞ
自帰



いのち
維那：懺法回向諷誦

通天寺

第十二回 管長御親教 第六教区

平成26年4月13日



琉球古典音楽 我那覇常允氏による献笛



記念品を受ける三浦隆心兼務住職



信徒伊集守和氏謝辞





目次

カラクラビア◎相国寺「観音懺法会」……………1

◎御親教 通天寺……………4

就任御挨拶……………8 宗務総長 佐分宗順

相国寺観音懺法会……………12 立畠敦子

平成二十六年 御親教日単……………18

御親教寺院紹介……………21

御親教感想文……………23 南星中学校一年 我那覇龍介・天正寺総代 松田圭一

望郷あれこれ……………27 演劇塾 長田学舎 斉藤維明

本山だより……………33

坐禅会のご案内……………34

教区だより……………37

教化活動委員会活動報告……………47 教化活動委員会委員長 佐分宗順

相国寺史編纂室だより……………49

相国寺 秋の特別拝観……………50

宝物拝見「芹屋七宝文尾垂真形釜」……………51

承天閣だより「石踊達哉展」「京都相国寺と金閣・銀閣展」……………52

カラクラビア◎御親教 天正寺……………54 佐々木契道新住職晋山

◎第六教区天正寺 第十三世……………55

心のすがた……………76

新内局

相国会総裁	有馬頼底
新副総裁	佐分宗順
会長	片岡匡三
本部長	矢野謙堂
管長	有馬頼底
承天閣美術館名誉館長	
宗務総長	豊光寺住職 佐分宗順
教務部長	大光明寺住職 矢野謙堂
庶務部長	慈雲院住職 草場周啓
財務部長	普廣院住職 山木雅晶
法務部長	眞如寺住職 江上正道
教学・庶務部員	眞如寺住職 江上正道
財務・庶務部員	豊光寺副住職 佐分昭文
承天閣美術館館長	養源院住職 平塚景堂
承天閣事務局長	長栄寺住職 鈴木景雲
鹿苑寺執事長	林光院住職 澤宗泰
同 執事	是心寺住職 和田賢明
慈照寺執事長	桂徳院住職 小出量堂
同 執事	慈照院副住職 久山哲永

新宗議会議員

第一教区	長得院住職 緒方香州
第二教区	竹林寺住職 牛江宗道
第三教区	福圓寺住職 大谷昌弘
第四教区	東源寺住職 角野元保
第五教区	正善寺住職 穎川孝生
第六教区	本誓寺住職 延本輝典
第六教区	感應寺閑栖 芝原一三
第一教区	養源院住職(正) 平塚景堂
	林光院住職(副) 澤宗泰
第二教区	竹林寺住職 牛江宗道
第三教区	本派庶務部長兼任
第四教区	正善寺住職(正) 穎川孝生
第五教区	本誓寺住職(副) 田中太真
第六教区	感應寺閑栖 芝原一三

新宗務支所正副長

第一教区	養源院住職(正) 平塚景堂
	林光院住職(副) 澤宗泰
第二教区	竹林寺住職 牛江宗道
第三教区	本派庶務部長兼任
第四教区	正善寺住職(正) 穎川孝生
第五教区	本誓寺住職(副) 田中太真
第六教区	感應寺閑栖 芝原一三



就任御挨拶



宗務総長

佐分宗順

本派寺院住職各位、寺族、檀信徒の皆様、相国会会員の皆様方、暑中
お見舞い申し上げます。

本年三月の定期宗議会において推薦を受け、このたび宗務総長の重職
を担うことになりました。非力ではありますが、相国寺派の発展のため
力を尽くす所存です。

私は平成二十三年に山木康稔前宗務総長の要請を受け、相国寺派の財
務部長としてこの三年間、財務行政の健全化のための改革と相国寺本山、
鹿苑寺、慈照寺の組織改革を進めて参りましたが、今般、山木康稔師は

後進に道を譲るべく、宗務総長の職を引退されました。

今後は、前総長の意志を継ぎ、さらなる相国寺の改革と私たち相国寺
派の足下に横たわる様々な問題の解決をはかり、さらに次の世代に松明
を引き継ぐことが私の役目と考えております。

思い起こせば、相国寺山内豊光寺の先代春應和尚が鹿苑寺執事長、相
国寺派宗務総長を務められた時代は^{だいぞうくつ}大象窟大津樞堂管長、村上慈海鹿苑
寺長老が相国寺の発展に尽くされた時代であり、同時に寺院の自治が問
われる大問題が発生した波乱の時代でもありました。昭和三十一年
(二九五六)に、新聞紙上で発覚した銀閣寺住職による寺の資金の個人的
流用事件は昭和五十四年(一九七九)銀閣寺前住職遷化による和解に至
るまで、長期の裁判事件となりました。同じ昭和三十一年に、京都市は
「文化観光施設税」の導入を決めたため、鹿苑寺をはじめ清水寺など有名
観光寺院は反対運動を繰り広げることになります。これらの問題に相国
寺の先達は真摯に取り組み、解決を図ってこられました。「文化観光施

設税」は撤回させることができなかつたのですが、市長と対象寺院との間で「この種の税は今後一切徴収しない」という覚え書きを交わすことで将来の布石を残されたのです。

銀閣寺問題への取り組みは、残された資料などから熾烈しれつな闘いであつたと推察することができますが、その努力の結果は相国寺の自治と一山の住職方による民主的な寺院運営の基を築くことになりました。これら先達の働きなくしては今の相国寺の発展と繁栄はなく、今私たちはその先達の尽力があつたからこそ、その果実を享受することができるのです。

歴史は繰り返すという見方もありますが、かつての「文化観光施設税」は昭和六十年（一九八五）に「古都保存協力税（古都税）」と名称を変え、再び私たちの時代に襲いかかつてきました。しかし、私たちの世代はこの税を撤回させ廃止することができました。かつての「文化観光施設税」の時の先達の働きと、その歴史を踏まえた京都仏教会を中心とした会員寺院方の連携と取り組みによって、寺院側の正当な理論武装による戦いが結果を大きく動かしたのです。

いま、宗教界は様々な意味において苦境に立たされております。京都仏教会を中心に反対運動を繰り返している改悪された宗教法人法の問題、宗教課税の問題、公益法人制度改革後の公益性の議論をめぐる法令の問題点等、是正されなければならない課題は多く、私ども相国寺派は宗教の自治と自由を守るため、京都仏教会と連携して問題に対処してまいる所存です。また、相国寺内部においては「相国寺派規則」「相国寺派宗制」「大本山相国寺規則」の改正、整備が必要とされております。また相国寺派各寺院では無住寺、兼務寺が増加している現状、これからの無住寺院の統廃合のあり方を皆さまとともに検討し、問題の解決に着手しなければならぬと考えております。

皆様のさらなるご精進と、相国寺派ならびに大本山相国寺に対する絶大なご支援を頂きますよう宜しくお願い申し上げます。

相国寺観音懺法会

立畠敦子

この度方丈の修理と伊藤若冲の動植綵絵三十幅のコロタイプ完成を祝し、観音懺法会（この度方丈の修理と伊藤若冲の動植綵絵三十幅のコロタイプ完成を祝し、観音懺法会）の式次第（この度方丈の修理と伊藤若冲の動植綵絵三十幅のコロタイプ完成を祝し、観音懺法会）第②プログラム）について述べて参ります。

毎年六月十七日、相国寺では方丈において観音懺法会（この度方丈の修理と伊藤若冲の動植綵絵三十幅のコロタイプ完成を祝し、観音懺法会）が開催されます。懺法とは懺悔（この度方丈の修理と伊藤若冲の動植綵絵三十幅のコロタイプ完成を祝し、観音懺法会）のことをいい、観音様へ己の罪を詫び、感謝し、亡き人の追弔のために行われる法会です。シンバルのような鉦（この度方丈の修理と伊藤若冲の動植綵絵三十幅のコロタイプ完成を祝し、観音懺法会）、呪文（この度方丈の修理と伊藤若冲の動植綵絵三十幅のコロタイプ完成を祝し、観音懺法会）のような陀羅尼（この度方丈の修理と伊藤若冲の動植綵絵三十幅のコロタイプ完成を祝し、観音懺法会）、散華（この度方丈の修理と伊藤若冲の動植綵絵三十幅のコロタイプ完成を祝し、観音懺法会）、献茶（この度方丈の修理と伊藤若冲の動植綵絵三十幅のコロタイプ完成を祝し、観音懺法会）、雲水（この度方丈の修理と伊藤若冲の動植綵絵三十幅のコロタイプ完成を祝し、観音懺法会）による行道（この度方丈の修理と伊藤若冲の動植綵絵三十幅のコロタイプ完成を祝し、観音懺法会）など、その式は独特な所作で見えるものを魅了し、敬謙な気持ちにさせる法会としてこれまで肅々と伝えられてきました。

観音懺法会（この度方丈の修理と伊藤若冲の動植綵絵三十幅のコロタイプ完成を祝し、観音懺法会）のテキストは『請観世音菩薩消伏毒害陀羅尼三昧儀（請観音経）』から経文を抜き出し、これに『千手千眼観世音菩薩广大圓滿無礙大悲心陀羅尼経（大悲呪）』と『法華経』第二十五卷『普門品（観音経）』を加えて、観音の力を説いた複数の経典を再編集し、さらに陳白（この度方丈の修理と伊藤若冲の動植綵絵三十幅のコロタイプ完成を祝し、観音懺法会）という懺悔とともに唱えることで、観音の恩恵をうけるという観

音尽くしの法会です。

懺法会の当日、方丈の正面に掛けられるのはもちろん観音菩薩（この度方丈の修理と伊藤若冲の動植綵絵三十幅のコロタイプ完成を祝し、観音懺法会）です。観音懺法会は早朝七時半にスタートし、四時間にも及ぶ長い法会です。その懺法会は次のように進められます。

一、勸請（太鼓・鉦の合奏）観音様をこの場にお呼びします。

二、大悲呪の誦経

三、礼拝観音様をはじめ多くの仏・法・僧へ礼拝します。

四、焼香・散華・献茶香を焚き、花びらを蒔き、お茶を供えます。

参列者にもふるまわれます。

五、陳白（導師のみ）懺悔の文言を述べます。

六、柳枝浄水柳の枝で水と場を清めます。

七、小回向（導師のみ）

八、懺悔全員で節のついたお経（田植節）を合唱します。

九、行導全員で堂内をめぐるります。

十、誦経全員で観音経を早口でとなえます。

十一、小諷経相国寺に縁のある人々の戒名を読み上げます。

〔大悲呪〕一読の後懺法僧一同退場

十二、奉送 (太鼓・鉦の合奏)観音様をお送りいたします。

一、勧請ではまず太鼓・鉦を持った懺法僧四名が入場し、合奏して観音様を場にお呼びいたします。二、大悲呪を合唱したら、いよいよ観音懺法会の本編に入ります。三、まず一心にすべての仏・法・僧へ頂礼(礼拝)をし、程なくして四、焼香・散華・献茶を行います。焼香は観音懺法会中隨所で計八回行われます。次に再び一心にすべての仏・法・僧へ頂礼します。そして五、導師による陳白(懺悔)がなされ、六、浄水が行われます。聖なる水を柳の葉っぱでまいて場を清めて観音に供えます。懺法会は長いためこの時他の懺法僧は中座して小休止します。その後観音様への帰依を伝え苦疫からの開放を願い、香を焚きながら請観音経の中の陀羅尼を唱えます。陀羅尼は懺法中三回唱えられます。七、導師の小回向を終えたら八、全員で



散華



浄水



勧請

懺悔の文言を合唱します。ここからクライマックスへ突入します。懺悔は田植節ともよばれ、寺伝で田植歌に似ているからだと言われます。独特の節回し(メロディー)が付けられていて、とてもあわせるのが難しい部分です。これまで経文の単語の音節を伸ばしてなるべくゆっくりと唱えていたのに対して、田植節はメロディーがつき一番梵唄の特徴があらわれる所です。懺法中懺法僧は各自座っている場所で、立ち上がったたり座ったりを何度も行い礼を尽しますが、九、行導では全員で立ち上がって、仏・法・僧・諸仏への帰依を唱えながら堂内を三周巡り礼拝します。再び自席にもどって座し、十、最後に観音経を早口で合唱して観音懺法会は終わりを迎えます。十一、小調経を行い、十二、太鼓と鉦で観音様をこの場からお返しして静かに観音懺法会は終了します。



行導

この観音懺法は中国ではじまり、中国宋代の天台僧慈雲遵式が中国の懺法を編集した「請観音経」を日本で再編集して使用しています。経文はほぼ踏襲していますが、最後の誦経で「観音経」を読む所が中国と異なり、観音懺法が日本独自の懺法として整備されたことがわかります。この懺法を編集したのが、清拙正澄と夢窓疎石と石梁仁恭の三人の禅僧であり(『鹿苑日録』に所載)、その後夢窓疎石の法嗣である春屋妙葩、誠中、中欵によって式次第や梵唄は整えられていき広まっていきました。そこから懺法といえ

相国寺と言われるようになったと考えられます。

観音懺法会を行う懺法僧は、相国寺の塔頭及びその関係者から選ばれます。そして懺法僧は練習を欠かしません。懺法の経文は大変難しく、節がつけられていない部分があり、磬の音でタイミングをとりながら、息を合わせて合唱することが重要になるからです。この懺法会の練習の様子は江戸時代の相国寺九十五世鳳林承章の日記『隔冥記』の中にも書かれています。

方丈正面の本尊は室町時代の画僧明兆が描いたとされる白衣観音です。そしてその左右には、青物問屋の主人であり絵もよくした伊藤若冲の釈迦三尊図のうち文殊菩薩図と普賢菩薩図がかけられます。三尊の前には立葵が立てられ、米・塩・水菓子や霊具膳が供えられます。観音懺法会の中心はその名のとおり観音様ですが、どの観音様が掛けられるかまたその取り合わせはこれまでの長い懺法の歴史の中で多少の変更はあったようです。

この観音懺法会では多くは白衣観音を掛けることが慣わしとなっています。現在各寺に残される多くの白衣観音は観音懺法会のために作られたものも多数あると考えられます。古くは中国から伝わった文物のリストとして



室中 正面中央に掛けられる観音菩薩図

知られる『仏日庵公物目録』に観音図が含まれますし、『夢窓疎石語録』に「水墨観音」が使用されたという記述もあります。相国寺で昨年まで観音懺法会で掛けられた文室宗言筆の三十三観音図は、江戸時代に東福寺の明兆筆の三十三幅を忠実に写したものです。この三十三観音は明兆により観音懺法会のために作られたと考えられ、さきほどご紹介した懺法の内容と描かれた画面が一致しています。それは人々が直面する困難な場面に観音が三十三の姿(応身)で現れ救ってくれるというもので、まさに懺法会の最後に読まれる観音経の内容をわかりやすく描いたものだと考えられます。また、若冲が相国寺に納めた釈迦三尊図三幅と動植綵絵三十幅は合わせると三十三幅となり、若冲の動植綵絵の制作の目的は、父母永代の供養と観音への帰依と何よりこの観音懺法会そのものであったと思われる。懺法後に読まれる小調経の中に若冲の戒名がありますので、相国寺にとっても若冲は重要な存在であり、その証しとして明治期の混乱で寺を立て直すため皇室へ献上された動植綵絵三十幅が、この度一二五年ぶりにコロタイプで復活し懺法会で堂内に掛けられたことは大いに意義のあることだと思われれます。今回はこの本尊の観音様について述べたいと思います。

● 著者紹介 立島敦子

日本中世絵画史

九州大学大学院哲学・哲学科(美学・美術史)修了
現在 北九州市立小倉城庭園 主任学芸員

平成二十六年年度① 通天寺御親教日単

有馬頼底管長、山木康稔宗務総長、矢野謙堂教学部長、江上正道部員(司会・写真)、荒木泰量部員(維那)

4月11日

11時30分 先駆 御親教加担(江上・荒木両部員)
那覇空港到着
通天寺にて準備・打ち合わせ

4月13日

8時45分 先駆、通天寺到着
10時 管長、総長、教学部長出発
10時10分 境内にて多数の出迎えを受け、管長、
総長、教学部長到着

4月12日

12時55分 管長、総長、教学部長本山出発
13時 通天寺にて先駆組、第六教区光明寺副
住職、縁故寺院、信徒習礼(通し練習)
17時 管長、総長、教学部長那覇空港到着
住職、加担組僧侶、空港にて出迎え
20時 夕食後、投宿先「サザンリンクスホテ
ル」到着

10時20分 殿聲五聲支度
10時25分 琉球古典音楽師範 我那覇常允氏に
よる献笛で管長、総長、教学部長、通
天寺三浦隆心兼務住職、第六教区南洲
寺住職、光明寺副住職、縁故寺院 沖繩
万福寺、久留米福聚寺、山梨長慶寺(殿
司)が出頭
江上が司会進行、荒木が維那を務める
一、般若心経、消災呪、本尊回向
二、大悲呪、開山回向

三、甘露門、信徒・沖繩戦没者諸霊
位先亡回向
通天寺へ御親教記念品贈呈
(管長墨蹟書き下ろし)
管長法話、総長挨拶、教学部長挨拶
信徒謝辞 代表 伊集守和氏
記念撮影
11時50分 御親教終了

12時 見送りを受け管長、総長、教学部長出発
続いて、加担組、住職、役員出発
12時40分 投宿先「サザンリンクスホテル」にて
昼食会
14時40分 那覇空港到着
18時30分 那覇空港出発
20時20分 伊丹空港到着
21時30分 本山帰着

平成二十六年年度② 天正寺御親教・晋山式日単

有馬頼底管長、佐分宗順宗務総長、矢野謙堂教学部長、江上正道部員(記録・写真)、荒木泰量光源院副住職(侍衣)

5月27日

8時 管長、総長、教学部長、教学部員、光源
院副住職
本山出発

9時15分 天正寺到着
到着茶礼

晋山式開式
9時55分 殿聲五聲支度
10時 連声出頭

第三教区各寺院、縁故寺院に続き管長、小林老師、総長、教学部長が入堂
最後に天正寺 佐々木契道新命住職が入堂

記念撮影
12時5分 御親教終了
12時30分 「天王殿」にて祝賀会
15時30分 本山帰着

- 一、祝聖
 - 二、開山諷経
 - 三、火徳諷経
 - 四、賀儀受三拜
 - 五、管長より住職辞令伝達
 - 六、総茶礼
- 僧侶退堂
新命住職更衣

御親教開教
10時50分

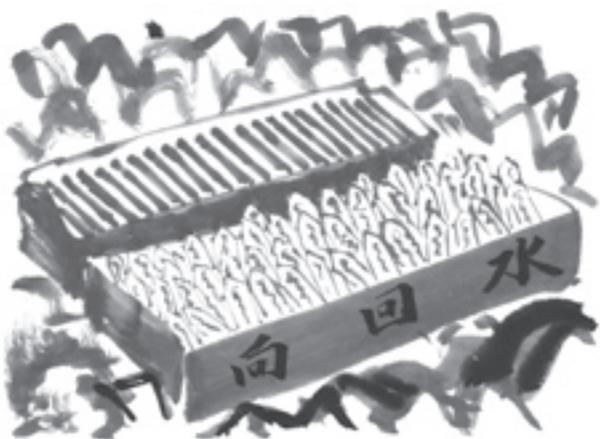
連声出頭

管長、小林老師、総長、教学部長、佐々木契道天正寺住職、第三教区宗会議員福圓寺住職、縁故寺院が出頭

- 一、般若心経、消災呪、本尊回向
- 二、甘露門、檀信徒先亡回向

天正寺へ御親教記念品贈呈
(管長墨蹟書き下ろし)

管長法話、総長挨拶、教学部長挨拶
檀信徒謝辞 総代 紙谷祐次氏



御親教寺院紹介

通天寺

〒九〇一〇五〇四 沖縄県島尻郡八重瀬町後原三二六一四
電話 〇九八一九九八一六八七六 HP <http://www.4.ocn.ne.jp/~tutuzeni/>

山号 嶺南山
開創 平成二十一年(二〇〇九)十二月二十日
勧請開山 荻野独園禪師
本尊 聖観音菩薩像
脇侍その他 弁財尊天像
伽藍構成 本堂兼庫裡
住職 三浦隆心(兼務)
年間行事 坐禅会(月一回)
写経会

沖縄慰霊の日法要(六月二十三日)

●由来・沿革

仏縁により長く沖縄に逗留し、沖縄の文化や風習にて触れてまいりました。その昔は、京都

五山の僧侶達も多く沖縄に渡り布教活動されたと推察されます。

沖縄南部地区は、昔から寺院の無い地区が沢山あり、また大東和戦争の激戦地でもある場所です。今日、日本が平和であるということは、その当時の時代に翻弄された大勢の犠牲者のうえにあることを忘れてはいけな、と感謝しなければなりません。沖縄の人々に受けた御恩と慰霊のために一念発起し、寺院建立を発願致しました。

有馬頼底管長猥下にご相談したところ快く承諾頂き、勧請開山には明治時代の廃仏毀釈下に仏道の大切さを説き、当時の政府を動かした荻野独園禪師をお迎えなさい、とご教示を受け

「衆生無辺誓願度」とお言葉を頂戴致しました。そして、山号、寺号を「嶺南山」「通天寺」と賜りました。

平成二十一年十二月二十日に、ご本山より有

馬頼底管長猊下を導師に迎え、落慶法要を厳修致しました。沖繩県にはすでに臨済宗寺院が十六カ寺あり、当寺が十七番目となります(他はすべて妙心寺派)。

天正寺

〒五四三-〇〇四三 大阪市天王寺区勝山二-十一-三一
電話 〇六一六七七一-四一六一

開創 万治元年(一六五八)

開山 泰嶽禪師

本尊 聖観世音菩薩

伽藍構成 本堂 庫裡 大黒堂

住職 佐々木契堂(第十三世)

年間行事 大黒天春季大祭(一月十五日)

春秋彼岸会法要

花祭(四月八日)

布教活動 坐禅会 写経会 読書会

●由来・沿革

万治元年(一六五八)備中神應寺泰嶽禪師の創建にして円通山天正寺と称す。洛西総持院門跡鏡山尼和尚来つて、泰嶽禪師に参じ後、二世となる。爾来、尼僧法地となる。第三世明室尼の時、明和年間(一七六四〜七二)に再建する。第十世義誠尼は、昭和九年(一九三四)大黒堂を建立する。第十一世、昭和十六年(一九四一)三月二十五日附で大本山相国寺より特命住職を命じられ、第十一世より男僧法地となる。

第六教区 御親教 感想文

通天寺ご親教に参加して

南星中学一年 我那覇龍介

「金閣寺の偉いお坊さんが来るよ。一緒に行くか?」と父に言われ、僕はすぐに「行く」と答えました。すぐお会いしたいと思いました。

でも通天寺に着いてすぐ後悔しました。なぜなら子供は僕一人だったからです。

僕が管長様にお会いしたいと思ったのは、以前母と金閣寺に行き、とても感動したからです。僕が生まれ育った場所は沖繩です。金閣寺に行ったのは十一月の初めの頃、少しずつ色付き始めた紅葉、大きな鐘、そして寺。沖繩では見られない風景ばかりで、すごく感動しました。その管長様ってどんな方なんだろう?あんな大きな寺の偉いお坊さんなんだから怖いのか?厳しい方だったらどうしよう?お話の最中に少しでも動いて叱られるかな?と色々考えました。

車が到着して降りて来られた管長様は大きな方だ。だけどニコニコ笑っていてとても優しくな方でした。

お堂の中に入ってしばらく待っていると、父が吹く笛の音が響き、管長様やたくさんのお坊様が入ってきました。

一斉にお経を唱えた時は、すごい迫力で驚きました。さつきは優しい笑顔だった管長様が今は少し厳しいお顔、きつと僕達にはできない特別なことをして下さっているんだと感じました。僕達を代表して仏様にお話しして下さっていると僕は思いました。

お経が書かれた紙をもらっていたので、それを見ながらなんとか付いて行こうとしましたが、できませんでした。すぐにどこを唱えているのかわからなくなりました。よく見るとお坊さん

達はみんな何も見ないで唱えていました。「凄い、かっこいい」と思いました。

僕は聞くことにしました。たくさん声が重なって、時々歌のように聞こえます。窓の外から聞こえる鳥の声と犬の鳴き声、風でゆれる葉っぱの音、沢山の音が重なってとても気持ちよく眠りかけたところで、鐘の音。「はっ」となって前を見ると管長様の背中が見え、何だか安心してまた音に集中しました。とても気持ち良く不思議な感じでした。

法話の中で、日本中にご親教に行かれること、遠くは海外まで行くことを伺いびっくりしました。沖繩から京都まで行くのも遠いと思ったのに、もつともつと遠い所まで大変だなと思いました。

その後、記念撮影をしてお帰りになるので車までお見送りをしました。最初の時のように、おやさしい笑顔で皆と挨拶されました。

もう、僕の中の後悔は無くなっていました。来て良かった、参加できて良かったと思いました。

た。こんな機会を与えて下さった通天寺のご住職様ありがとうございます。

もう一度、金閣寺、鹿苑寺に行きたくなりました。



天正寺総代 松田圭一

第三教区 御親教 感想文

管長猯下御親教並びに 晋山式を拝しまして

私は大阪市天王寺区にあります小さなお寺「天正寺」の総代です。天正寺には檀家がおりません。檀信徒総代と申ししても一坐禅会参加者にすぎません。

このような天正寺の為に、今回管長猯下の御親教に加え、佐々木奘堂和尚の晋山式をかくも盛大に執り行っていたいただき、在家一同心から感謝しております。

前日降っていた雨も当日にはすっかり上がり、さわやかな気持ちで式を迎えることが出来たことを一同心から喜んでおります。

さて、新命住職が偈を唱えることから始まり、お経が読誦され、賀儀受三拜、そして管長猯下より辞令が授与され、総茶礼に終わる晋山式がまず執り行われました。

無学な私には理解しがたい部分も多くあり

ましたが、そのきらびやかで荘厳な雰囲気は十分伝わってきました。その中でも一番の見所は「住職晋山の偈」でしょうか？きらびやかな装束を身に纏い、いつになく緊張ぎみの住職が七言絶句を唱えながら杖をつく場面が力強く印象的でした。

晋山式を執り終えた後、いったん全和尚方が退堂され、新たに入堂して、御親教が始まりました。諷経がなされた後、管長猯下の住職への墨蹟授与に続き、いよいよ管長猯下の御法話です。

管長猯下は過日、朝日新聞の紙面に平和への思いを綴られておりましたが、実際に猯下御本人の御言葉を拝聴しますと格別のものでありました。平易で柔和な御言葉の中に、平和への強い思い、仏教徒として、平和の維持発展のため本気で取り組んでおられる姿勢が伝わって

望郷あれこれ

演劇塾 長田学舎 斉藤 維明

きて感激しました。

これは少し余談になるかもしれませんが、管長猥下が御法話の際に瑩堂和尚のことを謙遜されて『不肖の弟子』とおっしゃったとき、在家の中から思わず笑い声がこぼれました。この笑いはもちろん『不肖の弟子』に同意する意味ではなく、我々在家の者が住職に抱いている親しみの現れです。

その後、宗務総長様の御挨拶、教学部長様の御挨拶、紙谷総代の謝辞、法類の養源院様の謝辞と続きました。どれを取り上げても心に残る御言葉でした。

冒頭に申しました通り、天正寺は檀家のない

お寺です。檀信徒と申ししても、坐禅会参加者の集まりというだけで、恒常的に在家組織がある訳ではありません。今回の御親教並びに晋山式への取り組みでも、坐禅会参加者がいわばボランティアで活動したという表現が正しいかもしれません。そのため、至らない点が多々あったことをここにお詫びします。

最後になりましたが、管長猥下、宗務総長様、教学部長様、本山御一行の皆様、加担和尚の皆様、御親教並晋山式をかくも盛大に執り行っていただき改めて感謝申し上げますとともに、御本山の益々の御発展を御祈り申し上げます。このたびは本当にありがとうございました。

平成二十六年(雨安居)
相国僧堂 在錫者名簿

福 島 (妙心) 忠教寺徒	阿邊宗寛	京 都 (相国) 瑞春院徒	須賀集信
和歌山 (妙心) 観福寺徒	足助厚堂	宮 崎 (相国) 龍源寺徒	田中正明
島 根 (妙心) 海禅寺徒	園山大穰	京 都 (相国) 大通院徒	杉野宗担
京 都 (相国) 慈雲院徒	中山真周	岐 阜 (妙心) 萬福寺徒	興山元卓

先日、久し振りに小、中学校時代の同窓会の案内状が届いた。以前から何度も同窓会の案内をもらっていたが、未だに一度も出席したことがない。案内に、前回の同窓会に参加した人達の集合写真と名簿が同封されていた。ややピンぼけした写真の中のかつての級友達は、すっかり変わった姿かたちで、名簿の名と見比べながら思い出しても、誰が誰と判じることが出来ない。辛うじて五人程の男性の顔貌の中に、記憶の内の面影を見出すだけだ。女性に至っては全く判らない。

私の故郷は、北海道の北部、宗谷地方の音威子府おといねっぶと云う鄙ひな山村である。母校はその咲来地区さつくろに在った咲来小学校であり、咲来中学校であった。小学校の六年、中学校の三年の計九年間は、多少の出入りはあったが、ほとんど変らぬメンバーで学んでいた。その頃を振り返ると、男女の分け隔てなく学び、遊び、喧嘩をして、文字通り竹馬の友と言えた。しかし、中学校を卒業すると、就職して故郷を離れる者、高校へ進学する者、それぞれ進路が分れ、何となく付き合いが疎遠になった。殊ことに私は、高校を卒業して就職で京都へ出て来て後は、彼等とは完全に没交渉の状態になった。

今回の同窓会は、北海道組と本州在住組それぞれに配慮して、音威子府の天塩川温泉てしおがわと、東京池袋のホテルでと、二度行くとある。「両方に出席する方、大いに歓迎」との幹事のコメントもあったが、今回も出席を見合わすことにした。

天塩川温泉は、咲来地区の北部の天塩川の川沿いに在り、昔は常盤鉱泉と云う冷泉を沸かした温泉だった。私が京都出て来てから後、村の地域活性化の事業で出来た、宿泊施設と日帰り入浴施設を併せた「住民保養センター」になった。

天塩川温泉での宴会は、野外でのジンギスカン鍋、又はジンギスカン焼きと案内されていた。ジンギスカン用の特殊タレに漬け込んだ羊肉片を、野菜などと一緒に炊いて食べるのがジンギスカン鍋で、バーベキューのように炭火で網焼きしたものジンギスカン焼きとなる。北海道で広く親しまれている定番のものだ。



私の生家は、禅宗のお寺だった。戦前、戦後の食糧事情の大変悪い時代に、母が暮らしの足しにと、ジャガ芋や野菜、豆類などを裏の畑で作って居り、又、鶏を十羽位飼っていた。それでも戦後すぐは、親戚の三大家族が疎開して来ていたので大変な事だったのだろう。

私が小学校の二年か三年生の頃と記憶しているから、昭和二十五、六年頃だったのだろう。当時、親戚の人で、農協(現在のJA)の専務理事をしていた人がいた。私達子どもは専務おじさんと呼んでいたのだが、子供心にもちょっと調子の良い人だと感じていた。喋り声も笑い声もとにかく大きくて、遠くからでも専務おじさんだと解る程元気な人だった。まだ軒下などに雪が残っていたころだったから、五月の初めだったのだろう。その専務おじさんが、檀家の農家からもらってきたと言って、真白の仔山羊を無造作にかかえて置いて行った。近所の大工のおじいさんに山羊小屋を造ってもらったと思うのだが、小屋が出来る迄の間、勝手口の玄関に繋いでいた。突然親から引き離された為、淋しがつて夜通し啼き詰めだった。布団に入ってから、遠くから聞こえるか細い哀し気な啼き声は、私達子供を切ない気持ちにさせた。今もその時の仔山羊の姿を思い浮かべると、その声が耳の奥に蘇って来る。その仔山

羊が大きくなり、乳を出すようになってからは、毎夕兄と二人で乳搾りをするのが日課になった。私は乳搾りが下手で、いつも山羊の後の足で蹴られて、腕や脛すねに引つ掻き傷をつくっていた。その山羊が一年程のうちに、繋ぎのロープが首にからまって突然死んでしまった。学校から急いで戻ると、父が防空壕の跡地に埋めてしまった後だった。悲しくがっかりしたが、仕方がないと諦めた。ところが数日後、兄から、専務おじさんが山羊の死体を切り分けて、胴体を持っていったらしいと聞いて、大変憤慨した。それ以来、ちよつと専務おじさんが嫌いになって、専務の馬鹿、馬鹿専務などと陰口をたたいたものだ。それが昭和二十七、八年頃で、戦後復興の兆しが見え出し、食糧事情も随分良くなった時代だった。丁度その頃、北海道のあちこちで、ジンギスカン鍋が何故か大流行していた。ちよつとした寄り合いでも必ずジンギスカン鍋で一杯やるのが大人達の楽しみだったようだ。そんな訳で、我が家の哀れな山羊も、専務おじさん達の寄り合いに集った大人達の胃袋に納まったと云う事だった。



ジンギスカン鍋と聞くと、今でも山羊のことを思い出して、胸に小さな疼^{いたみ}を覚える。

同窓会の級友のことを書こうと思って、すっかり脱線してしまった。名簿を見て驚いたのは、音威子府^{おといねっぶ}の地元^{じよん}に誰一人として残っていないことだ。音威子府に住んで居る姉の言によれば、人口は昔の半分程に減り、若い人も少なくなったそうだ。因に、咲来^{さつくろ}小学校、咲来中学校は、児童生徒の減少で、十年前に廃校となり、音威子府小学校、中学校に併合されたと云う。少子高齢化時代と言われて久しいが、故郷の音威子府は、殊にそれが著しいようだ。総務省の試算でも、このまま少子化が進むと、四十年後には日本の総人口数も、約八千万人弱に減少するそうだ。そればかりか、首都圏と地方の格差が益々拡大して、全国の自治体の内、九千八百程が消滅すると云う。

東日本大震災からの復興、福島原発事故処理、又、東シナ海の尖閣諸島を巡る中国との対立と、内外に数々の難問を抱えた日本。果して、五十年、百年後の日本はどんな国になっているのか。知る由もないが、ただ世界から尊敬される平和で優しい国であって欲しいと念^{おも}うばかりである。

本山だより (平成二十五年十一月～二十六年六月)

○鹿苑寺開山忌

十一月二十一日、鹿苑寺(澤宗泰執事長)では開山忌並びに開基足利義満公の諷経が厳修された。有馬管長を導師に韜光室^{たうこうしつ}小林老大師、山木宗務総長はじめ一山ならびに縁故寺院尊宿により諷経がなされた。

○臨黄合議所理事会

一月二十日、臨黄合議所理事会が大徳寺において開催され、山木宗務総長が出席した。

○本山防火訓練・AED講習会

一月二十八日、冬の文化財防火運動の一環で京都市消防局上京消防署指導の下、防火訓練並びにAED講習会を二年ぶりに行った。今回も一山僧侶、寺族、職員、警備員らで構成する相国寺自衛消防隊(隊長・山木宗務総長)



講評を行う山木自衛消防隊隊長

と消防士や地元消防分団が各班に分かれ、指揮者のもと法堂より出火の想定で、通報、初期消火、文化財搬出、人名救護、消火栓放水銃と消防車による一斉放水などが手際良く行われ、防火・防災意識の向上に努めた。



各班に指示を出す矢野副隊長

続いて承天閣美術館二階講堂において、防署員指導によるAED講習会が開催され、慈照寺職員も加わり、心肺蘇生の応急手当講習を受講した。



人形を使った心肺蘇生訓練

○全日本仏教会顧問弁護士連絡会

二月四日、真言宗智山派宗務庁(京都市東山区)において、全日本仏教会加盟団体の顧問弁護士連絡会が開催された。当日は『宗教法人設

立認証制度の現状』と題して講演と質疑が行われ、相国寺顧問弁護士のほか内局より佐分財務部長、矢野教学部長、江上、荒木両教学部長も出席した。

○第十回 臨黄教化研究会

二月六日、七日の両日、花園大学の教堂並びに花園会館において臨黄合議所主催による第十回臨黄教化研究会が開催され、佐分昭文師(第一教区豊光寺副住職)、澤宗秀師(同林光院副住職)、荒木泰量師(同光源院副住職)、牛江宗道師(第二教区竹林寺住職)、佐々木契堂師(第三教区天正寺住職)、石崎靖宗師(第四教区海岸寺住職)、加藤幹人師(同南陽寺住職)、鈴木元浩師(同潮音院住職)、松本昭憲師(第六教区光明寺副住職)、松下恵悟師(同永徳寺住職)、芝原祥三師(同感應寺住職)の十一名が参加、また開講式と基調講演には山本宗務総長、矢野教学部長も出席した。また基調講演後、班別で行われる分科会では、矢野部長も加わり盛んな討議が行われ、他派の和尚方と共に研鑽を積んだ。

○第一教区総会

二月二十一日、第一教区総会が管長現下以下第一教区各寺院住職、閑栖和尚、副住職の計

十九名が出席して開催された。

○臨済宗連合各派布教師特別研修会

二月二十六日より二十八日まで、大徳寺に於いて布教師特別研修会が開催され牛江宗道師(第二教区竹林寺住職)、石崎靖宗師(第四教区海岸寺住職)、福場宗康師(第五教区萬福寺住職)、松本憲融師(第六教区光明寺住職)が本派より布教師として参加した。開講式、理事会には山本宗務総長、矢野教学部長も出席した。

○禅文化研究所理事会

三月六日、禅文化研究所理事会が同所にて開催され、佐分財務部長、久山財務部長が出席した。

○春秋巡教

本派布教師による二十六年定期巡教は、松本憲融師(第六教区光明寺住職)が三月十一日～十八日にかけて京都府舞鶴市の東福寺派寺院七カ寺、南禅寺派寺院三カ寺、天龍寺派寺院

二カ寺を、二十一日には佐賀県有田町の南禅寺派一カ寺を順に布教、また石崎靖宗師(第四教区海岸寺住職)が三月二十四～四月五日にかけて広島県、岡山県、愛媛県の佛通寺派寺院十三カ寺を順に布教した。

○同宗連第一連絡会

三月十二日、大徳寺で同宗連(『同和問題』)ととりくむ宗教教団連帯会議第一連絡会が開催され、矢野教学部長、荒木教学部長が出席した。

○定期集会

三月十三日、各教区から登山した七名の宗会議員(二名が新任)、内局員全員が出席のもと、平成二十五年度定期宗会が本山会議室で開催された。議事に先立ち大谷昌弘師(第三教区福圓寺住職)を議長に、角野元保師(第四教区東源寺住職)を副議長に選出し、有馬管長の入場後全員で開山諷経、続いてご挨拶をたまたわった後に審議に入った。平成二十四年度相国寺派・相

国寺本山決算報告、二十六年相国寺派・相国寺本山予算案、承天閣美術館平成二十四年度決算・事業報告、二十六年度予算案・事業計画案、宗務総長任期満了に伴う候補者推薦の件、小林玄徳相国寺専門道場師家「視察開堂式」の予定の件が協議され承認可決された。

○焼骨灰供養法要

三月十七日、方丈において京都仏教会と京都中央葬祭業協同組合の主催による京都市中央・宇治市斎場「春季焼骨灰供養法要」が厳修された。昨年までの三年間は方丈の修復工事のために他所で行われていたが、本年より会場提供の協力をを行うこととなった。

開式に先立ち矢野教学部長が法話を、続いて有馬管長を導師に山木総長以下内局員が出頭し、宮城泰年京都仏教会常務理事の弔辞に続いて法要が行われた。焼香には多くの遺族や関係者が訪れ、方丈室内と縁側は満席となり、法話・法要を通じて心静かに故人の冥福を祈った。

○臨黄合議所理事長本山引継ぎ

三月二十六日、大徳寺本坊事務所(京都市北区)において「臨済宗黄檗宗連合各派合議所」の理事長本山引き継ぎが行われ、戸田実山理事長(大徳寺派宗務総長)や中川弘道事務局長(第二教区大雲寺住職)のほか相国寺派からは山木宗務総長、佐分財務部長、矢野教学部長、江上教学部長が出席した。相国寺派の理事長本山任期は、本年四月一日より平成二十八年三月末日までの二年間である。

○瑞林寺夢窓国師毎歳忌

三月三十日、第三教区瑞林寺(三重県津市・長谷寺高山宗親住職兼務)では開山毎歳忌が厳修され、矢野教学部長と和田財務部長が拝請を受け出頭した。(関連記事51ページ)

○第四・第二教区合同少年・子供研修会

四月二日、平成二十六年度の第四教区若狭少年研修会と第二教区子供研修会が、本年も



書院にて坐禅をする少年少女

別室にて本山女子職員お手製のカレーライスを頂いた後、それぞれの目的地へ向かった。



宗務総長の法話を聞く参加者たち

○京都高齢者大学公開講座

四月九日、京都高齢者大学の公開講座「宗教の世界」が本山大書院において開催され、有馬管長が「禅の山河」という内容で法話を行い、引き続き参加者は法堂と方丈を拝観した。



京都高齢者大学公開講座で話を有馬管長

○無為室老大師五十遠年諱、拈華室老大師超祥忌厳修
四月十日、十一日の両日、大通院（相国寺専門道場）において無為室山崎大耕老大師の五十遠年諱並びに拈華室田中芳洲老大師の超祥忌（七回忌）が厳修され、韃光室小林玄徳老大師が導師を勤められた。

法要には有馬頼底管長のほかに国泰寺派澤大道管長猥下（十日の宿忌のみ）、円覚寺派横田南嶺管長猥下、円通寺専門道場の長谷川大道老

大師、南禅寺専門道場の日下元精老大師、光雲寺田中寛洲老大師、南陽院鈴木正澄師を始め、大通会会員諸師（相国僧堂出身者）、相国寺本山一山その他関係者が出頭し両師の遺徳を偲んだ。

老大師香語は左の如し。

無為室老大師五十遠年諱、拈華室老大師超祥忌
香語

五十年兼又七年

因齋慶讚兩師禪

甚深恩澤未報得

大法護持誓佛天

紹徳九拜

右

定中昭鑑

○第十二回 管長御親教①

四月十三日、第六教区通天寺（沖縄県島尻郡八重瀬町）において平成二十六年度有馬管長御親教が行われた。通天寺は、平成二十一年

十二月に第五教区西光寺（島根県出雲市）三浦隆心住職により新寺として建立落慶され本年で五年目を迎えた。以来、住職が沖縄県と島根県を行き来し、月例坐禅会や写経の会、沖縄戦没者追悼法要、正月行事等を行い、檀家制度の無い沖縄において来訪者を増やし、また信徒を獲得されてきた。有馬管長による御親教の開催が決まって以降、同寺の支援者の気運も高まり、今回の御親教参加者は、これまでに行った他寺と遜色なく多くの人たちが訪れた。

当日は早くも初夏を感じる好天に恵まれ、琉球古典音楽師範の我那覇常允氏による献笛で開教し、本尊諷経、開山諷経に続き、信徒先祖代々・沖縄戦没者諸霊位の回向もなされた。本山よりは山本宗務総長、矢野教学部長、江上教学部員、荒木教学部員が管長に同行、第六教区よりは南洲寺（矢野焰恵住職）、光明寺（松本昭憲副住職）が、また通天寺縁故寺院が出頭した。終了後には、会場を移して懇親会を開催した。

（詳細は巻頭カラー4ページなどを参照）

○前堂転位式

四月二十一日、開山堂に於いて第一教区光源院(荒木元悦住職)徒弟の荒木文紹師の前堂転位式が挙行された。師は相国寺専門道場に修行され、今後の活躍が期待される。拜塔偈は左の如し。

萬年韶光千樹春
榮華馥郁滌心塵
無辺妙法平生夢
塔下立志一望新



前堂転位式

○臨黄合議所理事会

四月二十三日、午前十一時より会議室において、臨黄合議所理事会が開催され、臨済宗黄檗宗各本山より宗務総長十三名が参集した。相

国寺よりは山本宗務総長と佐分財務部長(新宗務総長)が出席した。

○慈照寺開山忌

五月二十一日、慈照寺(小出量堂執事長)では開山忌並びに開基足利義政公の諷経が厳修された。法要に先立ち華務花方による献花が行われ、引き続き管長猥下を導師に、小林老大師、佐分宗務総長をはじめ一山尊宿、京都仏教会事務局僧侶により諷経がなされた。

○日田辯財天春季大祭

五月二十六日、大分県日田市にある西之山辯財天堂で春季大祭並びにお火焚祭が厳修され、有馬管長猥下を導師に、澤鹿苑寺執事長、小出慈照寺執事長、矢野教学部長、山木財務部長が出頭して大般若が転読された。

○第十二回 管長御親教②

五月二十七日、第三教区天正寺(大阪市天王

寺区)において有馬管長御親教が行われた。今回は第十三世佐々木契道新任職の晋山式も併せて厳修され、本山より佐分宗務総長、矢野教学部長、江上教学部長が管長に同行、またご出身の相国寺専門道場より小林老大師をはじめ多数の縁故寺院、そして第三教区各寺院が出頭した。

当日は、好天のもと導師の佐々木新任職が入堂し、晋山の偈を唱え、祝聖、開山、火徳諷経、住職辞令伝達、賀儀受け三拝、総茶礼まで行い、有馬管長と導師を交代して本尊、祠堂諷経、記念品授与後、開教となった。終了後には、会場を移して住職就任の祝賀会が開催された。(詳細は巻末カラー74ページなどを参照)

○相国会本部役員会

五月三十日、午後一時より本山会議室において、平成二十六年相国会本部役員会が開催された。般若心経一卷を諷経後、相国会総裁の有馬管長、新副総裁の佐分宗務総長よりご挨拶を賜り、引き続き第一教区理事の片岡

匡三氏を議長に選出して審議に入った。平成二十五年事業・決算報告、二十六年予算案、事業計画案がそれぞれ承認可決された。また前号で概要をお伝えしたように本誌『円明』第一〇〇号発刊を記念して開催する、「相国会本部円明第一〇〇号記念研修会」の研修日程の確認や募集要項の詳細についても協議された。当日の出席者は左記の通り。

	理事	顧問
第一教区	片岡 匡三	平塚 景堂
第二教区	波多野 外茂治	牛江 宗道
第三教区	小川 武義	大谷 昌弘
第四教区	伊藤 彰	欠 席
第五教区	勝部 和美	延本 輝典
第六教区	萩原 健一	芝原 一三
他、宗務総長以下内局員五名		

○禅文化研究所理事会

五月三十日、禅文化研究所理事会が同所に

て開催され、佐分宗務総長、久山慈照寺執事が出席した。

○臨済宗連合各派布教団本部引継ぎ

六月一日、大徳寺派に替わり相国寺派が「臨済宗連合各派布教団本部」の担当となり、その会計や新年度予算案作成の動きがあった。続いて二十四日は大徳寺(京都市北区)において布教団理事會が開催され、相国寺派からは佐分宗務総長、矢野教学部長、江上教学部員が出席した。

ついで七月八日に事務局の引継ぎが行われ、全国の臨済宗各派寺院にて開催される布教師の巡教の手配や会計、また理事会の開催などを担当する。相国寺派の本部任期は、本年六月一日より平成二十八年五月末日までの二年間である。

○二十六年 春期特別拝観

三月二十四日より六月四日まで、今期より春は法堂、宣明(浴室)と修復なった方丈を公開し、一六、八七三名の参拝があった。秋期特

別拝観は、九月二十八日より十二月十五日まで法堂、方丈、開山堂を公開の予定である。

(巻末カラー70ページ参照)

○観音懺法「ご先祖追善供養」

昨秋の方丈修復落慶に合わせて完成した伊藤若冲筆の「動植綵絵」(複製)三十三幅(詳細は前号参照)を、懺法会に先立つ六月六日から十四日までの九日間、方丈に特別に掛けて来訪者を受付し、「ご先祖追善供養」を行った。

○観音懺法会

本山恒例の観音懺法会が、六月十七日午前七時半より厳修された。本年より会場が方丈に戻り、伊藤若冲筆の動植綵絵(複製)を掛けて厳修された。(巻頭カラー、12ページ参照)

◆役配

導師 哲永東堂 太鼓 雅晶東堂
香華 正道西堂 大鉞 昭文座元

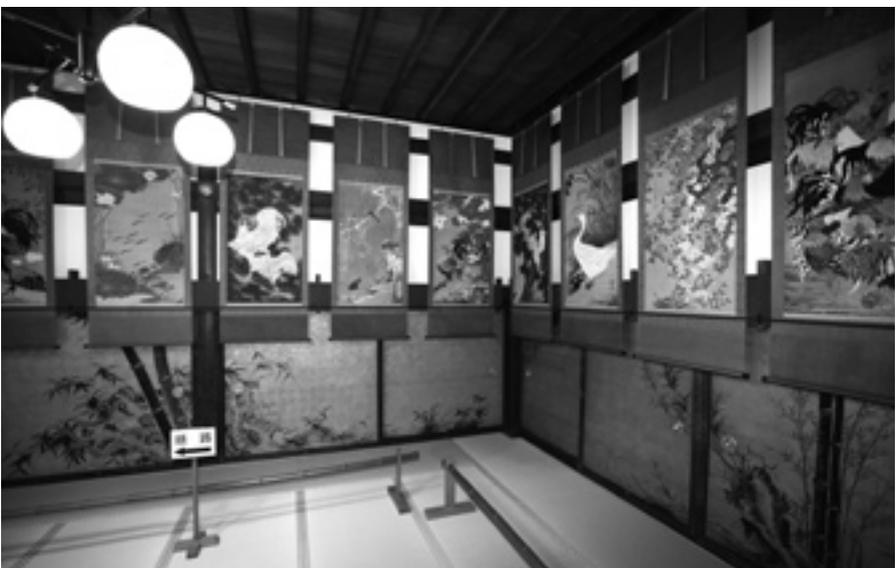
自婦 普廣閑栖大和尚 中鉞 宗秀座元
打磬 賢明西堂 小鉞 泰量座元
維那 豊光和尚

○臨黄合議所総会

六月二十日、午前十時より臨黄合議所総会が担当本山である相国寺において開催された。全国の臨済宗・黄檗宗各山から宗務総長、各部長ら六十四名が参集。方丈で有馬管長を導師に各山開山諷経が行われた後、総長会、各部長会などに分かれ討議がなされた。その後の総会では、平成二十八年年度の遠諱事業や討議の報告が行われた。

○同宗連第一連絡会

七月一日、京都市右京区の仁和寺(真言宗御室派総本山)で、二十六年第一回同宗連(『同和問題』にとりくむ宗教教団連帯会議)第一連絡会が開催され、矢野教学部長、江上教学部員が出席した。



「観音懺法」ご先祖追善供養で掛けられた「動植綵絵」(複製)

本山維摩会

毎月第二・第四日曜日開催

(※一月第二、八月第二・第四、十二月第四日曜日は休会です)

相国寺の維摩会は、明治時代に当時の第一二六世荻野独園住職が、主に在家を対象として始めた坐禅会であり、以来歴代の相国寺住職が指導にあたってきました。第二次大戦中より戦後昭和三十八年頃までは、相国寺塔頭大光明寺で開催され、それ以降は再び本山での開催となり、現在に至っています。

維摩会の名称の由来は、経典『維摩経』の主人公で、在家でありながら釈迦の弟子となった古代インドの維摩居士からつけられたものです。

会場：相国寺 本山大書院

時間：午前九時より十一時迄

内容：坐禅(九時～十時半)

法話(十時半～十一時)

注意点：当日は八時五十分までに必ずお集まり下さい。十人以上で参加の際は、前日までに電話連絡をお願い致します。

(電話〇七五―三三―〇三〇一)

尚、満員の場合はやむなく御断りする場合がございますので、あらかじめご了承下さい。初めての方には、別室で坐禅指導を行います。

威儀：楽でゆったりとしたものが望ましい。肌の露出が多い服やフード付きの上着、スカート、ジーパンなどは避けて下さい。

東京維摩会

平成二十六年の開催日は左記の通りです。

有馬管長坐禅会

九月十三日(土)

十月二十五日(土)

十一月八日(土)

十二月十三日(土)

(八月は休会です)

会場：相国寺東京別院・庫裡事務棟一階

時間：午前十時半より正午頃迄

内容：『寒山詩』提唱、坐禅、茶礼

威儀：服装は、楽でゆったりとしたものが望ましい。肌の露出が多い服やフード付きの上着、スカート、ジーパンなどは避けて下さい。

小林老師坐禪会

八月十六日(土) 九月六日(土) 十月十一日(土)
十一月二十二日(土) 十二月二十日(土)

時間：午後一時より二時半迄

内容：『臨濟録』提唱、坐禪、茶礼

威儀・袴を貸与するも、足りない可能性がありますので、服装は、楽でゆったりとしたものが望ましい。肌の露出が多い服やフード付きの上着、スカート、ジーンパンなどは避けて下さい。

※開催日を変更する場合があります。最新の情報は、相国寺派ホームページをご覧いただくか、相国寺東京別院(電話〇三三四〇〇一五八五八)までお問い合わせ下さい。



東京維摩会会場 庫裡事務棟外観



教区だより

第一教区

○鹿苑寺不動堂「節分会法要」

二月三日、鹿苑寺(澤宗泰執事長)の不動堂において、恒例の節分会「石不動明王」御開帳法要、大般若祈禱が行われ、有馬管長を導師に法類寺院が出頭した。不動堂石室内の弘法大師作とされる本尊不動明王は、首から上の病、特に眼病に利益がある。法要後は、不動講社の講中による護摩木焚きも行われ、集まった多くの参拝者が入堂し、本尊に手を合わせていた。八月十六日にも開帳される。

○普廣院新任職就任

三月二十一日、山木雅晶師が山内塔頭普廣院の住職に就任した。新任職は昭和四十三年生まれ、京都産業大学卒業後に相国寺専門道場で

修行され、平成六年より同院副住職として先代住職を支えてこられた。また同十四年より三期にわたり財務・庶務部員として勤務され、本年五月からは財務部長に就任された。後日、本山一山に住職就任披露がなされ、さらなる活躍が期待される。

また、閑栖となられた山木康稔師は、昭和四十三年より四十六年間の長きにわたり住職として、よく寺院の護持発展に尽くされてきた。さらに平成十四年よりは鹿苑寺執事長、同二十三年よりは宗務総長としても一山の運営に関わられ、その職責を果たされた。

○出町青龍妙音辨財天「巳日巳刻法要」

五月十日、山内塔頭の大光明寺(矢野謙堂住職)の飛び地境内である出町青龍妙音辨財天(京都市上京区青龍町)において、昨年に続き第

二回「巳日已刻法要」が厳修された。

当日は晴天のもと百名を超える参拝者があり、導師の矢野住職のほか佐々木契堂師(第三教区天正寺住職)、江上正道師(眞如寺住職)、佐分昭文師(豊光寺副住職)が出頭した。

法要では、事前に受け付けた参拝者の心願成就の祈願文を住職が回向の中で順に読み上げ、辨財尊天御真言を全員で唱和した後、堂内で一人ずつお札とお守りを授け、大般若の経本で加地厄除けの肩叩きをしたあと住職が法話を行った。来年も同時期の巳日に開催される予定である。

○眞如寺鎮守「半僧坊大権現」御開帳

五月十八日、山外塔頭の眞如寺(江上正道住職)で鎮守の半僧坊大権現を六十数年ぶりに御開帳し大祭が厳修された。

半僧坊大権現は、静岡県浜松市引佐町奥山にある臨済宗大本山方広寺の鎮守である。正平五年(一二三〇)、無文元選禪師が留学先の中国明州より船で帰国中、東シナ海で暴風雨に遭

遇した時、鼻の高い異人「半僧坊」が現れ「私は、

あなたが学び体得した仏法を伝え広めて頂くために、故国へお送り申します」と叫んで、遭難の危機を乗り越え博多の港へ送り届けたと伝わっており、禪師が後に方広寺を開いた時にも再び現れ弟子となり、「このお寺を護り、世の人々を苦しみや災難から救いましょう」と言い残し以来鎮守になったとされる。

明治十四年(一八八一)に、その方広寺の伽藍が大火に遭い、再建の為に焼け残った半僧坊が各地に勧進され「火災消除・厄難消除・心願成就・身体健康・商売繁盛」などの守護神として御分身が広まった。

眞如寺の半僧坊大権現は、明治時代に相国寺の荻野独園管長が方広寺において影響を受け、後に相国寺山内に御分身を勧請したものを、さらに大正七年(一九一八)に当時の高橋無傳眞如寺住職が境内に遷座したものである。以来、年に二回「半僧坊大般若祈祷」が厳修されていたが、昭和二十六七年頃を最後に本格的な行事は途絶えていた。

今回、寺に残る過去の記録などを参考にこの行事を復活させ、半僧坊大権現御開帳大祭とし



「半僧坊大権現」を祀る圓通殿内で厳修された大般若祈祷

て、住職のほか奥山方広寺から内藤智道師(方広寺派講社部長)、本山より矢野謙堂師(大光明寺住職)、佐分昭文師(豊光寺副住職)、澤宗秀師(林光院副住職)のほか縁故寺院が出頭し大般若祈祷を行い、半僧坊大権現御真言を参列者



境内では手作り市も開催された(写真撮影◎柴田明蘭氏)

全員で唱和した後、大般若の経本で加地厄除けの肩叩きを行った。法要の他に客殿でのお茶席や青空手作り市も合わせて開催され、さらに境内池の満開のカキツバタが花を添えた。来年以降も五月中旬に開催される予定である。

第二教区

○御親教謝労会

十一月二十五日午後六時半より、一昨年、昨年開催した有馬管長第二教区御親教の無事円成を祝って、当教区の十一名の住職・閑栖さんの参加を得て謝労会が開催された。

二年間にわたった教区内全十三ヶ寺の御親教が大過なく終ったが、檀信徒の皆様方の御協力を得て、その準備をされて来た住職方の御苦労をねぎらった。

当日の夜は、晩秋の紅葉の季節と重なり、有意義なひとときを心ゆくまで味わった。

○第四回子供研修会

四月二日午前十一時より、第二教区内の小学生十七名(男子九名・女子八名)が参加して、第四教区若狭少年研修会の小学生といっしょに、本山に於いて子供研修会が行なわれた。研修のあと、今回は午後から大徳寺様並びに子供に縁の深い一休禅師が御開祖の塔頭、眞珠庵様を特別拝観させて頂いた。

参加者(大人を含めて三十六名)は、方丈と仏殿の二か所で般若心経をお唱えした。また、本山では藤田寛蹊師から、眞珠庵では山田宗正御住職から懇切ていねいなご説明を頂き、一同感激して下山した。

○教区総会

四月二十六日午後四時より、大原桂徳院に於いて十一名の住職が出席して第二教区の教区総会が開催された。本堂にて全員で諷経したのち総会に入ったが、今回は昨年で御親教が終了したこともあり、特に大きな議題もなく

無事終了し、その後懇親会を開催した。



桂徳院本堂にて

第三教区

○瑞林寺夢窓國師毎歳忌

三月三十日、瑞林寺(三重県津市片田井戸町)



大徳寺国宝の唐門(別名日暮し門)の前で

長谷寺高山宗親兼務住職)では、大本山から矢野謙堂教学部長、和田賢明財務部員を拜請し、開山毎歳忌を厳修した。

当日は小雨のため本堂前より生誕地記念碑を遙拝し、大悲呪一卷読誦するなか、井戸町民こそって参列焼香し、夢窓國師の遺徳をしのんだ。

○天正寺 佐々木装道住職晋山式

五月二十七日、第三教区天正寺(大阪市天王寺区)において第十三世佐々木装道新住職の晋山式が厳修された。

新住職は昭和四十一年生、平成二年東京大学教養学部卒業後、本山山内の大光明寺で有馬頼底師について得度し、京都大学大学院で学ばれた後、本派専門道場で修行され、平成二十二年に天正寺に入寺されていた。

今回、管長御親教を受けるにあたり、晋山式を同時に行う運びとなり、師僧の有馬管長を始め、本山より佐分宗務総長、矢野教学部長を、また相国寺専門道場より韜光室小林老大師をは

じめ多数の法縁深き寺院方、第三教区より宗議会議員の福圓寺大谷昌弘師をはじめ各寺院、そして法類寺院の諸大徳に御出頭、御随喜頂いた。さらに、学生時代からの縁者や天正寺入寺後に坐禅会などを通じて寺に來られるようになつた在家縁者ら約百名も参列し、盛大な式典となった。今後、益々同寺の発展と新住職の活躍が期待される。(巻末カラー75ページなどを参照)

○南苑寺裏山落石防止柵設置

六月七日、南苑寺(小野塚越山住職・鳥取県三朝町)の境内裏山落石防止柵設置工事が完了した。これは、平成二十三年十一月に発生した裏山斜面崩落による落石事故(本誌第九十九号)教区だよりに関連記事)をうけて行われたもので、鳥取県中部県土整備局河川砂防課により本年三月から柵の設置工事がされた。当寺は山の急斜面に境内があるため堂宇も被害を受けたが、こちらの復旧は平成二十四年春に完了している。



瑞林寺本堂前より夢窓國師碑に謁経する参列者



今回設置工事が完成した境内背後の落石防止柵

第四教区

○龍虎寺周山和尚退山式

十一月二十二日、田村周山師は昭和二十七年より住職を勤められ、本年満九十歳で退職されることとなり、退山式が挙行されました。檀家、教区近隣の住職方から、六十余年の永きに渡るお勤めに対しての感謝の言葉が述べられ、和や

かな暖かい式典となりました。
今後は善應寺の五十嵐祖傳師が兼務住職となられる。

○宗務支所 支所会

十二月十八日、支所会を善應寺に於いて開催した。第四教区宗会議員・正副支所長の改選、教区住職研修会等について協議。

○寺庭婦人会新年例会

一月十日、寺庭婦人会新年例会を潮音院に於いて開催し、新年度行事について協議した。

○宗務支所 住職研修会

二月五日、宗務支所住職研修会を真乗寺に於いて開催した。相国僧堂師家小林玄徳老大師を拝請し、坐禅ならびに提唱を拝聴した。

○若狭相国会役員会

二月八日、若狭相国会役員会を開催した。若

寺、鹿苑寺に於いて開催した。児童五十七名、住職八名、相国会役員八名の計七十三名が参加し、鹿苑寺に参拝後、本山にて坐禅研修。斎座を頂き、京都水族館にて研修をした。

○宗務支所 支所会

五月一日、支所会を正善寺に於いて開催した。定期宗議会報告、平成二十五年度教区会計決算等について協議した。

○若狭相国会役員会

五月三日、若狭相国会役員会を開催した。平成二十五年度若狭相国会会計監査、若狭相国会総会打ち合わせ。第三回寺院巡りについて協議した。

○寺庭婦人会例会

五月二十日、寺庭婦人会例会を東源寺に於いて開催した。

狭相国会寺院巡り日程、総会日程等について協議した。あわせて教区役員交代、顔合わせ会を行った。

○若狭相国会「春のお説教会」

三月一日より三日、若狭相国会「春のお説教会」を定期巡教にあわせて、若狭相国会主催で次の五カ所寺を会場にして開催した。開教会場は、長福寺・正善寺・円福寺・潮音院・東源寺。担当布教師は、大徳寺派本岳寺の松本浩舜師であった。

○教区寺院巡り

三月十五日、第二回教区寺院巡りを開催した。相国会役員が第四教区寺院を知る目的で、今回はおおい町寺院九カ寺を回った。後日、懇談会にて会員交流した。

○若狭相国会少年研修会

四月二日、若狭相国会少年研修会を本山相国

○若狭相国会総会

五月二十三日、若狭相国会総会を元興寺に於いて開催した。平成二十五年度会計決算、平成二十六年会計予算等協議の後、第二教区竹林寺住職の牛江宗道師に講演を頂きました。

第五教区

○西光院閑栖 金森則融師「布教団教区長表彰」

二月二十六日、出雲市斐川町の西光院閑栖金森則融師が、臨済宗連合各派布教団本部より長年の功績をたたえられ表彰された。これは平成二十五年三月に開催された同本部理事会で決まったものである。

師は未開教寺院が多い島根県出雲地区において、教区長として積極的に開教をすすめられ、短期で効率的な各寺院の巡教日程を作り上げ、三十四年という長期にわたって布教を支えてこられた。

今日同地区の相国寺派、南禅寺派等の関係寺院がすべて開教できるようになったのは師の功績である、という現教区長南禅寺派岸本恵親師からの推薦もあり今回表彰が決まったが、この表彰は前例がなく、金森師が栄えある表彰第一号となった。

○平成二十六年出雲相国会総会

五月十二日、西光院に於いて平成二十六年出雲相国会総会を開催致しました。教区内の寺院、寺院の総代役員が出席。平成二十五年度の事業報告、決算報告、出雲相国会の若干の規約改正の後、平成二十六年からの新役員を選出しました。引続き平成二十六年年度予算、事業計画を審議し承認された。

主な二十六年度の事業は、夏休み親子坐禅会、本山開山忌に合わせたの団体参拝、相国会本部研修会の参加、出雲相国会だよりの作成などである。

新役員は左の如し

会長…勝部和美氏(東光寺)
副会長…高島孝二氏(保壽寺)
会計…原 洋一氏(長嚴寺)
監事…内田 勝氏(富田寺)

第六教区

四月十三日、午前十時半より通天寺(三浦隆心兼務住職、沖繩県島尻郡八重瀬町)において管長宛下のご親教が厳修されました。

当日は本山より宗務総長・教学部長・同部員、第六教区より南洲寺住職・光明寺副住職、縁故寺院、県内寺院が出頭され、参列の信徒を合わせて六十五名が列席した。

晴天に恵まれ素晴らしい御親教を頂き、同寺が本派七十五カ寺目の御親教寺院として無事円成された。(巻頭カラー4ページなどを参照)

教化活動委員会活動報告

教化活動委員会委員長 佐分 宗順

教化活動委員会は平成十一年(一九九九)春、相国寺派管長の助言により創設されました。最初の研修会は同年五月二十九日に開催された、洗建^{あらいけん}先生による六回連続講義「宗教と法制度」の初回でした。本年度で十五年目を迎えることになりましたが、その間十六のテーマのもと、合計七十六回の研修会を行って参りました。講師の先生方は、私たち宗教者に対して理解とその役割の的確な評価をしておられる先生ばかりで、これからの我々の活動に役立つ『講義録』を残して下さいました。

中でも第十回の末木文美士氏による講義「日本仏教の可能性」は、平成十八年十月に春秋社より『日本仏教の可能性』というタイトルで一般書籍として発売され、さらに平成二十三年十一月に同書は新潮文庫からも発売されています。また第十五回の佐藤優氏による「危機の時代における宗教」は、平成二十六年二月に『サバイバル宗教論』というタイトルで文春新書より発売されました。いずれも私たち宗教者の立場を理解し、これからの宗教者の役割を論じ、古都税問題や宗教課税の問題に対して正当な評価を下しておられます。我々教化活動委員会の『講義録』の発行部数は五〇〇部ほどですが、一般書籍として多くの人々の目に触れる機会を得たことは有難いことだと思います。

さて十五年目を迎えた研修会ですが、本年はこの委員会の一つの節目として、第一回の講座を引き受けて頂いた洗先生の『座談集』を上梓したいと考えております。洗先生は宗教学者として、また文化庁宗務課の専門職員として宗務行政にもたずさわってこられ、あらゆる宗教の実情に通じ、諸外国の宗政行政にも詳しく、「宗教法人法」成立の過程や、戦中戦後の宗務行政の実情をつぶさに見てこられた経歴の持ち主です。また、京都仏教会のこれまでの活動の理論的支柱としてご協力を頂いた方です。数回の座談という形式を取り、歴史のなかの個々の事例に光を当て、洗先生を

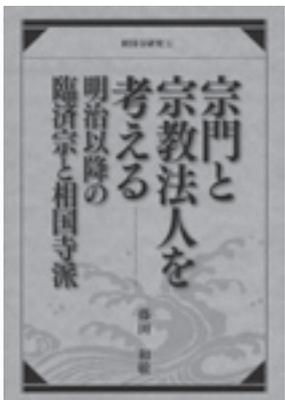
通して学び直すことで、これからの宗教と政治のあり方を考える手がかりにしたいと考えております。この座談会は関係寺院の僧侶には公開形式とし、これからの宗教界を担う若手僧侶の研鑽の機会といたしますので、多くのご参加を期待いたします。

【講義録】

本誌前号でお伝えした相国寺史編纂室研究員の藤田和敏氏による研修会の講義録、相国寺研究七「宗門と宗教法人を考える―明治以降の臨済宗と相国寺派」が平成二十六年五月十日に上梓されました。

本書の内容

- 第一章 国家神道体制の形成と相国寺派の動向―明治前・中期―
- 第二章 宗派財政の窮乏と「臨済宗相国寺派紀綱」の編纂―明治後期・大正期―
- 第三章 戦時体制における臨済宗と相国寺派―昭和前期―
- 第四章 宗教法人法の成立と古都税反対運動―戦後―



これまでに行った研修会の講義録をご希望の方は、手数料一千元を添え、下記の相国寺宗務本所内教化活動委員会宛にお申し込みください。

申込先 相国寺教化活動委員会

〒六〇二-〇八九八

京都市上京区今出川通烏丸東入相国寺門前町七〇一

電話〇七五-二三三-〇三〇一

FAX〇七五-二二二-三三九九

ホームページ(<http://www.shokoku-j.jp>)

相国寺史編纂室だより ―『相国寺史』刊行にむけて―

相国寺に関する史料集は、これまでに『相国寺史料』全十一巻(思文閣出版、一九八四―一九七)が刊行されていますが、江戸時代の史料が主体となっています。そこで相国寺史編纂室では、相国寺最盛期の室町時代の様子や、近代の相国寺の歩みなどを明らかにするため、古文書調査や史料収集を進め、『相国寺史』の刊行を計画しています。

現在、『相国寺史』第一巻の「史料編 中世一」の刊行の準備をしています(平成二十八年刊行予定)。

この巻では、相国寺勸請開山かんとくかいせんの夢窓疎石むそうそせきの事蹟から室町時代までの相国寺関係の史料を収録する予定です。室町幕府と密接に関わることで繁栄していた相国寺の様子や、相国寺を中心とした五山文化、禅宗の繁栄、その後、応仁の乱で被害を受けながらも復興を遂げていく相国寺の状況などをうかがうことができます。今回の「史料編 中世一」の刊行により、はじめて室町時代の相国寺とその門派の展開を見渡すことができます。年代順に史料を並べていますので、史料の内容を要約した文をたどっていただきますと、年表を読むように相国寺の歴史がわかる構成になっています。どうぞ、ご期待ください。

<p>大本山相国寺御用達</p> <p>社寺建築 (株)北村誠工務店</p> <p>〒603-8225 京都市北区紫野南船岡東町45 電話京都 (075) 441-0563 FAX京都 (075) 441-0571</p>	<p>〒604-8356 京都市中京区大宮通錦上ル 電話〇七五八二一三八七二</p> <p>精進料理 上 常</p>
<p>大本山相国寺御用達</p> <p>庭園 設計・施工</p> <p>樋口造園 (株)</p> <p>〒602-8341 京・上京区七本松通中立売下ル 電話 (075) 462-1385 FAX (075) 464-6120</p>	<p>大本山相国寺御用達</p> <p>御法衣・仏具</p> <p>(株)後藤利法衣店</p> <p>〒604-8273 京都市中京区西洞院通三条上ル 電話 (075) 221-4587 FAX (075) 223-0094 フリーダイヤル (0120) 014587</p>
<p>大本山相国寺御用達</p> <p>精進料理</p> <p>矢尾治</p> <p>〒600-8486 京都市下京区高辻堀川町358 電話 (075) 841-2144 FAX (075) 841-2110 http://kyoto-shoujinryouri-yaoji.homepage.jp</p>	<p>文化財堂宇修復保存 大本山相国寺御用達</p> <p>社寺建築 設計・施工 数寄屋建築</p> <p> 澤甚株式会社 澤野工務店</p> <p>本社 〒605-0069 京都市東山区東大路通知恩院前上ル2筋目東入 TEL (075) 561-5394 (代) FAX (075) 533-3775 山科事務所・工房 〒607-8126 京都市山科区大塚元屋敷町62 TEL (075) 541-1257 (F)</p>
<p>貴重な御法衣の御用は 大本山相国寺御用達</p> <p>後藤新助法衣仏具店</p> <p>〒616-8041 京都市右京区花園寺ノ前町30番地 電話(代表) (075) 462-3915番 ファクシミリ (075) 462-3616番 URL http://www.rinzai.jp E-mail: rinzai@rmail.plala.or.jp</p>	<p>總本山御用達</p> <p>藤安田念珠店</p> <p>本店・〒604-8072 京都市中京区寺町六角角 電話 (075) 221-3735 (代表) 東京・札幌・福岡 各営業所</p>

<p>創業明暦年間</p> <p> 七味家</p> <p>〒605-0862 京都市東山区清水二丁目221 TEL (075) 551-0738 / FAX (075) 531-9352</p> <p>ゴウハンチミヤ ☎ 0120-540738 9:00~18:00 (冬季は9:00~17:00) http://www.shichimiya.co.jp/</p>	<p>夢のある空間づくりのパートナー</p> <p>トータルディスプレイ 企画・設計・施工・管理 TOTAL DISPLAY FUSHIMI KOHGEI 株式会社 伏見工藝</p> <p>[本社] 〒612-8009 京都市伏見区桃山町見附町11番地 TEL 075-621-2833 FAX 075-611-5465 [宇治工場] 〒611-0041 京都府宇治市横島町吹前15番地 TEL 0774-23-9255 FAX 0774-23-9254 e-mail: fushimi@d1.dion.ne.jp</p>
<p>Future Active Alliance</p> <p>office やまと</p> <p>パソコンからネットワーク・サーバ構築まで IT環境のトータルアドバイザー</p> <p>本社 〒604-8842 京都市中京区壬生土屋ノ内町19-13 TEL: 075-311-9000 FAX: 075-311-9494 中央支社 〒615-0846 京都市右京区西京極地蔵寺町29-62 TEL: 075-322-0110 FAX: 075-322-0770 E-Mail: info@office-yamato.net</p>	
<p>税理士 奥谷昌雄 税理士 内藤 誠</p> <p>〒602-8026 京都市上京区新町通榎木町上る春帯町340番地 TEL (075) 256-2551 FAX (075) 255-7461</p>	
<p> TDS</p> <p>社寺の電気、空調、防犯、防災設備</p> <p>有限会社 土橋電気設備</p> <p>〒606-0953 京都市左京区松ヶ崎海尻町4番地4 まちゃまちゃ 105号 TEL 075-703-6331 FAX 075-703-6332</p>	



ANA
CROWNE PLAZA
KYOTO

世界の歴史都市、
京都の中央に位置し、
世界文化遺産「二条城」の前に佇む
ANA クラウンプラザホテル京都。

ANAクラウンプラザホテル京都

〒604-0055 京都市中京区堀川通二条城前
Tel 075-231-1155
www.anacpk Kyoto.com

大切な文化財を始め、建物の安全と安心の為努力しています

電気設備工事・消防設備工事

ADACHI 足立電気工業株式会社

〒601-8045
京都市南区東九条西明田町34-21
TEL 075-681-4461 FAX 075-681-9767
E-mail: adachi-d@guitar.ocn.ne.jp



大本山相国寺御用達
社寺庭園・町屋庭園・露地庭
作庭 管理



長岡造園

〒616-8305 京都市右京区嵯峨広沢御所ノ内町13-3
電話 (075) 872-0005 FAX (075) 872-0004

印刷を極め、印刷を超える—

ヨシダ印刷グループは、情報伝達に関する「なくてはならない」製品・サービスを提供することで
お客様にとっての「いちばん」を目指すとともに新しい社会の実現に貢献します。

ヨシダ印刷株式会社 関西支店 京滋営業所

〒604-8277 京都市中京区西洞院通り御池下ル三坊西洞院町572 TEL.075-252-5421

E-mail: info@yoshida-p.co.jp URL: http://www.yoshida-p.jp/

[金沢本社・工場] 〒921-8546 石川県金沢市御影町19-1 TEL.076-241-2141(代)

[東京本社] 〒130-0014 東京都墨田区亀沢3-20-14 TEL.03-3626-1301(代)

[営業所・工場] 大阪・富山・福井・江東海岸



感動のそばに、いつも。

(株)JTB西日本 団体旅行京都支店

〒600-8421 京都市下京区綾小路通烏丸西入童侍者町167 NBF四条烏丸ビル2F

TEL. 075(284)0173 FAX. 075(284)0175

担当：酒井 健次 (営業時間 9:30~17:30/土・日・祝日休業)

なが——い、おつきあい。



貯める、運用する、借り入れる、積み立てる、備える、管理する…
京都銀行は、人生のさまざまなシーンで皆様を応援します。お気軽にご相談ください。

飾らない銀行

 **京都銀行**

<http://www.kyotobank.co.jp/>

あなたの、豊かな
人生のために。

三菱UFJ信託銀行のライフプラン・コンサルティング

三菱UFJ信託銀行は資金運用をはじめとする、
資産全般にわたる運用のご相談を承ります。

資金の運用

不動産のご相談

資産の管理・承継

 **三菱UFJ信託銀行 京都支店**

届出第6号 (一社)不動産協会会員 (一社)不動産流通経営協会会員
(公社)首都圏不動産公正取引協議会加盟

〒600-8006
京都府京都市下京区四条通高倉東入立売中之町85

TEL.075-211-7161

電話受付/平日9:00~17:00(土・日・祝日等を除く)



二条城前のロケーション

温かいおもてなしでくつろぎのひとつときを…

お食事・ご婚礼・各種パーティーに
ぜひご利用下さいませ

京都国際ホテル

〒604-8502 京都市中京区堀川通二条城前
TEL.075-222-1111(代)

<http://www.kyoto-kokusai.com>

www.shoyeido.co.jp



香



大本山相国寺御用達

香老舗 **松 紫 堂**

京都本社/京都市中京区烏丸通二条上ル東側 TEL 075-212-5590 FAX 075-212-5595
東京支店/東京都中央区日本橋人形町 2-12-2 TEL 03-3664-2307 FAX 03-3639-4969
札幌支店/札幌市中央区南8条西12丁目 3-6 TEL 011-561-2307 FAX 011-563-3502

京都本店 産寧坂店・大阪本町店・銀座店 人形町店 青山香房・札幌店



先人たちの賜物を伝えていく仕事。

デジタル再製画「伝匠美」 www.dnp.co.jp/denshoubi/

DNP

大日本印刷株式会社 www.dnp.co.jp

有馬頼底管長御好

御濃茶 萬年乃御年

御薄茶 常光

抹茶

全国並びに関西茶品評会 第一位
白園茶 農林水産大臣賞 29回受賞

大本山相国寺御用達

宇治 久小山園

京都府宇治市小倉町寺内八六番地
お問い合わせ(0774)20・0909
・ジュニアール京都伊勢丹店
地下一階 抹茶コーナー
・西河院店 茶店「元庵」水曜休館
・京都府中京区西河院通御池下ル
電話(075)223・0909

【お取り扱い】全国有名茶店・茶道具店
<http://www.marukyu-kojiaman.co.jp>



御法衣・御袈裟・御水引・戸帳・打敷
華蔓・御晋山式用品一式・稚児装束

各大本山御用達

橘兵 草木兵助商店

〒604-0024 京都市中京区衣ノ棚通御池上ル西側
電話(075)221-0934番 振替京都01090-4-3476

大本山相国寺御用達

京表具
絵画・墨蹟・織物・修理・一般表具一式
宗紋襖紙・御殿引手販売元

こう えつ あん
浩悦庵

古文化財保存修理研究所 有限会社 矢口浩悦庵

本社・工房 〒602-8025 京都市上京区衣棚通丸太町上る今薬屋町 318 番地
TEL(075)254-6021 (代)・FAX(075)254-6022
東京営業所 TEL (042)442-0177 E-mail:tokyo@koetsuan.com

<http://www.koetsuan.com> E-mail:office@koetsuan.com

● 編集後記 ●

◇暑中お見舞い申し上げます。相国会会員の皆様にはご健勝にてお過ごしのことと拝察申し上げます。お盆も近づいて参りましたが、御先祖様の一年ぶりのお里帰りを気持ち良くお迎えしたいものです。

◇本年五月より佐分宗順宗務総長のもと新内局が発足しました。山木康稔前宗務総長におかれましては一期誠にご苦勞様でございました。また此の度は長年内局を支えてこられた複数のご老僧方が勇退され、事務所内も人数が減り寂しくなりました。今内局では相国寺専門道場の韜光室小林玄徳大師の開堂、臨濟禪師1150年・白隠禪師250年両遠諱関連行事、相国寺東京別院落慶式をはじめ、臨黄合議所と臨濟宗連合各派布教団の当番等、盛りだくさんです。勇退されましたご老僧方の経験と、お知恵もお借りしながら新総長のもと一丸となって臨みたいと存じます。

◇相国会におきましても佐分宗順新副総裁就任をはじめ、第四教区颯川孝生正善寺ご住職、第五教区延本輝典本誓寺ご住職、第六教区芝原一三感應寺閑栖様がそれぞれ教区の支所長と相国会顧問に就任されました。今年は秋に本誌『円明』第100号記念相国会本部研修会をひかえております。各顧問和尚、理事の方にはどうか一層のご協力を伏してお願ひ申し上げます。

◇管長猥下の御親教も4月には第六教区沖縄通天寺、5月には第三教区大阪天正寺へ参りました。その折にはご住職はじめ、檀信徒の皆様には大変お世話になりました。厚く御礼申し上げます。9月下旬には最後となる、第一教区合同御親教を予定しております。

◇本紙面でも取り上げました伊藤若冲^{どうしやくさいま}「動植綵絵」三十三幅複製画が完成しました。三十三は、観音菩薩三十三応身に由来します。自らの悪業の罪を至心に懺悔し、観音菩薩に帰命頂礼します。その純一無雜^{じゆんいちむざ}の丹心と行いに、観音菩薩が救いの手を差伸べられます。毎年6月17日の「観音懺法会」を機に改めて自らの言動や振る舞いを顧みることが大変大切なことであります。

◇内局一般事務職におきまして約10年勤務して頂いた浅田裕美子氏が退職され大野遥香氏が4月1日より着任しました。宜しくお願ひ致します。

猛暑の砌、御自愛専一に祈念申し上げます。

(矢野謙堂 記)

えん みょう
円明 平成26年夏号(第102号)
平成26年8月1日発行(年2回)

編集/相国寺派宗務本所 教学部

発行所/大本山相国寺・相国会本部

〒602-0898 京都市上京区今出川通烏丸東入相国寺門前町701 TEL075-231-0301 FAX075-212-3591
URL <http://www.shokoku-ji.jp> E-mail kyogaku@shokoku-ji.jp (教学部)

制作・印刷/ヨシダ印刷株式会社 カット/BUN



『円明』誌は、環境にやさしい「水なし印刷」「Non-VOCインキ」で印刷しています。

● 臨黄合議所 遠諱大法会事務局からのお知らせ ●

臨濟宗黄檗宗連合各派合議所では、来たる平成28年に迎える宗祖・臨濟義玄禪師1150年、ならびに翌29年に迎える日本臨濟宗中興の祖・白隠慧鶴禪師250年の両遠諱にむけ、臨黄全宗派をあげて大遠諱事業を立ち上げております。

「禅 一いまを生きる」をスローガンに、さまざまな記念事業を行います。

臨濟禪師1150年・白隠禪師250年遠諱大法会 記念事業一覧

◎坐禅会

【遠諱報恩坐禅会】 平成27年3月～5月

全国各地の本山や専門道場で行う一般の方を対象とした坐禅会。現役の雲水と共に1日または1泊2日で修行体験をしていただきます。

【大坐禅会】 平成28年秋

遠諱の現代的意義を広く人々に問うことを目的に、鎌倉で数千人規模の大坐禅会を行います。大坐禅会では、一般の方もご参列いただける法要も行います。

◎講演会

【講演会・パネルディスカッション】 平成26年夏～28年春

大坐禅会のプレ・イベントとして、一般の方を対象に平成26年から28年にかけて数回の講演会(パネルディスカッション)を東京で開催する予定です。会場では椅子坐禅を行ない、初心者にも坐禅を体験してもらいます。

◎特別展

両禪師の遠諱に臨み、禅の流れをたどるとともに、禅の生き方を探る展覧会を開催します。臨黄15派の全面的な協力のもと、厳選された名品が一堂に会します。また、会期中には禅体験の場も設営し、坐禅、法話、茶道、華道などに触れる機会を提供します。

平成28年春 京都国立博物館

平成28年秋 東京国立博物館 2会場とも、会期は6週間程度を予定

◎顕彰旅行

【日中合同法要記念訪中団】

平成28年9月に河北省臨濟寺にて日中合同法要を行います。法要後、中国各地の祖庭などを巡ります。

【臨濟禪師顕彰旅行】

日中合同法要にさきがけ、各本山や専門道場などが中心になって河北省臨濟寺への拝塔を中心に祖蹟を巡る旅行を企画しています。

◎シンポジウム

平成27年に京都花園大学にて、3日間程度にわたり、国内外の関係研究者を集め、臨濟録、臨濟禪師、臨濟の研究史など多方面からシンポジウムを行います。一般の方も来場できます。

◎出版

【臨濟宗黄檗宗宗学概論】

禅の思想・歴史・文化、法要行事など、住職研修会や寺庭婦人会などで使える宗門の教科書的な概論を発行、各派寺院に記念品として配布します。

【布教書籍等】

一般の方に臨濟禪師を理解してもらうための書籍の刊行や、臨濟研究の50年史をPDF化してホームページ上で公開します。

臨黄合議所 遠諱大法会事務局 遠諱ホームページ <http://www.rinnou.net/rinzai1150>

【相国会会員のみなさま 問い合わせ先】

臨黄合議所ではなく、相国寺派宗務本所 教学部までお問い合わせ下さい。

〒602-0898 京都市上京区今出川通烏丸東入相国寺門前町701

TEL 075-231-0301 FAX 075-212-3591 E-mail kyogaku@shokoku-ji.jp

相国寺 秋の特別拝観

京都今出川
鳴き龍の寺

平成26年9月28日(日)～12月15日(月)

※10月18日(土)～21日(火)は、
行事のため拝観を休止いたします。

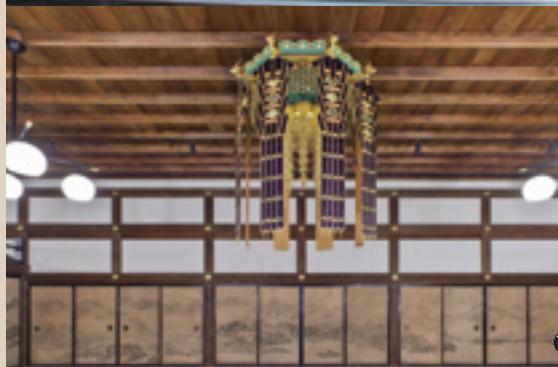
拝観時間：午前10時～午後4時 拝観場所：法堂・方丈・開山堂

拝観料：一般・大学生800円 65才以上・中高生700円

※団体割引有り ※行事のため予定なく拝観休止または拝観場所を変更することがあります。



法堂内部



方丈「室中」



開山堂と紅葉

宝物 拜見

重要文化財

あしや しっぽうもん おたれしん なりかま 芦屋七宝文尾垂真形釜

南北朝 相国寺蔵

高さ十九・一×口径十五・一×胴径二五・八cm

芦屋釜は筑前国芦屋(福岡県)で铸造された茶湯釜。鎌倉時代に始まり、室町時代に隆盛期を迎えた。足利義政の東山山荘に、筑前を領した大内政弘から芦屋かんす鍮子が多く献上されている。しかし桃山時代になると、「侘び茶」が普及していったことから京釜が盛んになり、芦屋の釜職人は分散し、江戸時代には芦屋系の釜が各地で造られていった。

本作、肩がなだらかに流れ、全体に七宝繁文が表わされている。鍮付は鬼面。また肌はなま鱧肌と呼ばれ、茶褐色で光沢があり独特の風合いを醸している。尾垂とは芦屋や下野天明(栃木県佐野市)によく見られ、長年の使用で破損した古い釜の底を取り換えたおり、欠けた羽の部分のままに残した形態を呼ぶ。本作の如くほとんどが不規則な波型に欠けている。

作品解説／承天閣美術館 事務局長 鈴木景雲



承天閣だより

Jotenkaku Museum



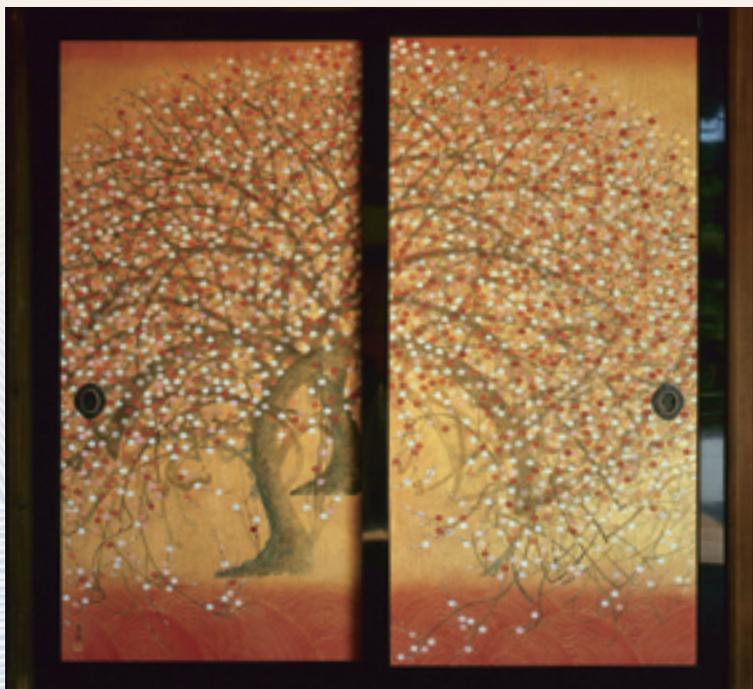
有馬管長と瀬戸内寂聴師と石踊画伯夫妻

「石踊達哉展」開催

いしおどり たつや

承天閣美術館では平成二十六年四月五日から六月八日まで、「石踊達哉展」を開催した。石踊画伯は伝統的な花鳥風月を、現代感覚で流麗な作品に昇華させ、観る人を魅了させる現代画家。「平成琳派」とも称され、国内外で広く活躍しており、鹿苑寺には石踊画伯の描いた杉戸絵が奉納されている。京都の美術館における大規模な展観は今回が初めて。期間中八千人の観覧者で賑わった。

これに先立ち四月三日開会式が執り行われた。



双樹紅白梅図 杉戸絵 (鹿苑寺蔵)

「京都相国寺と金閣・銀閣展」開催

於 八代市博物館

平成二十六年四月二十五日から六月一日まで熊本県八代市の「八代市博物館 未来の森ミュージアム」に於いて「京都相国寺と金閣・銀閣展」が開催された。承天閣美術館に収蔵されている雪舟等楊筆「重要文化財 毘沙門天像」、長谷川等伯筆「重要文化財 竹林猿猴図屏風」他伊藤若冲の絵画の名品。また「重要文化財 黄瀬戸大根文輪花鉦鉢」、「尾形乾山造 色絵龍田川透かし鉢」等茶道具の逸品が一同に展示された。期間中、地元熊本県や隣の鹿児島県からも、多くの絵画ファンや茶道ファン約一万人が訪れ大いに賑わった。

八代は熊本藩筆頭家老松井家三万石の城下町。松井家には多くの茶道具や絵画、また能面能装束(松井文庫所蔵)が代々伝わっている。平成二十三年秋、これらの美術品を拝借し承天閣で「肥後松井家の名品展」を開催。この縁でこの度の展観となった。

開会式には管長猥下がテープカットに御出杖された。



「伊藤若冲の名宝展」

平成二十六年六月十五日〜九月二十三日

現在の展観

天正寺

5月27日



記念品を受ける佐々木英道住職



総代紙谷祐次氏謝辞

第六教区天正寺 第十三世 佐々木英道新住職晋山

平成二十六年五月二十七日



新住職入堂



「晋山の偈」を唱える新住職



住職辞令の伝達



(教区だより52ページなどを参照)

とわ 永遠の安らぎ —石のカウンセラー—

株式会社 石 杖 都 みやこ



代表 坪田 忠男

年中無休 営業時間 / AM8:30~PM6:00 (日曜日PM5:00まで)

本社：〒603-8103 京都市北区小山北玄以町 24 番地 ヨクソ ヨイイン
(上賀茂橋西詰バス停前) 電話(075)491-4114(代)
工場：京都市北区上賀茂神山 389 番 24 ヨクソ ヨイイン
(洛北病院バス停前) 電話(075)702-2440
夜間：京都市左京区岩倉南池田町 117 電話(075)702-8814

御一報次第、遠近を問わず参上いたします。



心のすがた

心與月俱靜 (李調元)

我が心は、空に静かに澄む月と共に静かである。

心は月と俱に静か

撮影◎教学部(相国寺表方丈より)

